

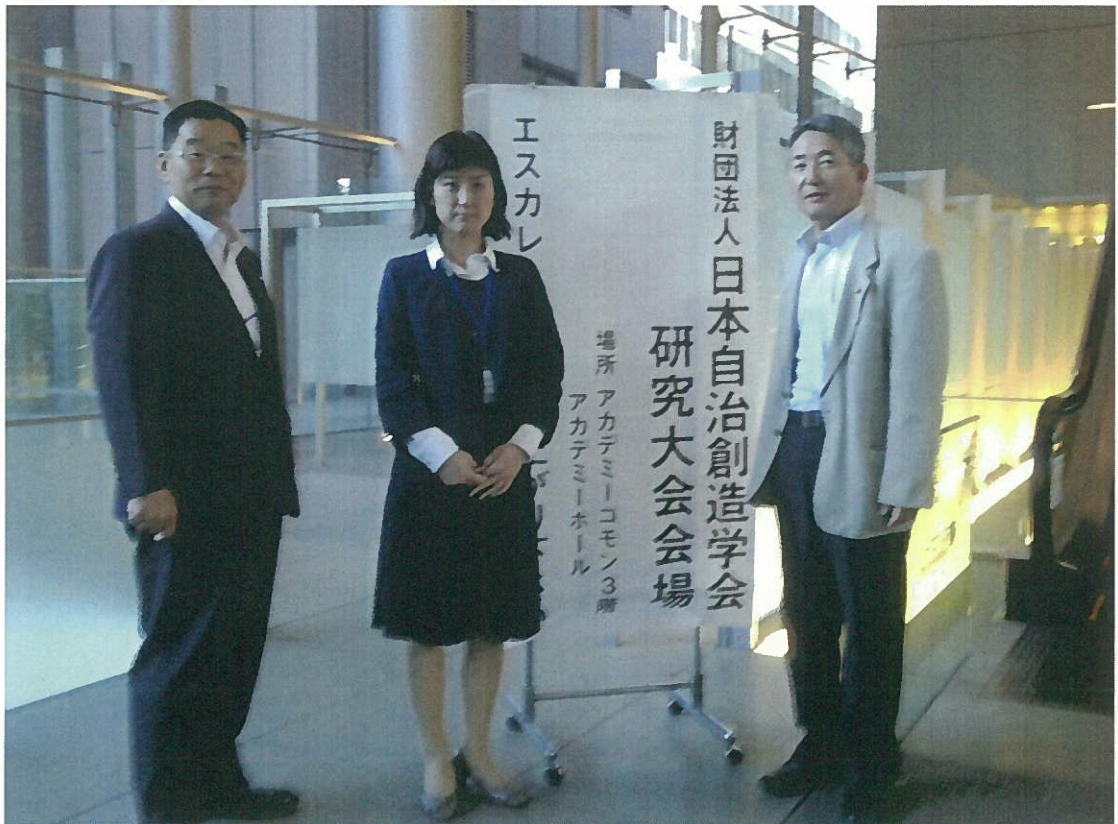
会派 都伸クラブ

平成 30 年度

行政視察報告書

視察日：平成 30 年 5 月 10 日（木）～11 日（金）

視察地：東京都 千代田区明治大学



参加者 都伸クラブ 3 名

黒木 優一 榎木 智幸 中村 千佐江

5月10日(木) 雨のち晴れ 11日(金) 晴れ

【視察場所】 千代田区明治大学 (財)日本自治創造学会

【視察項目】 人生100年時代の地域デザイン

～人口減少社会に向き合う地域社会～

プログラム 1日目

★大会挨拶

・穂坂 邦夫(財)日本自治創造学会理事長

こゝからの課題として、行政の仕事を市民がどれだけ担えるかということだと考える。
およそ4分の3は市民(素人)でもできると思う。

★講演Ⅰ

「人生100年時代の人づくり革命」

高橋 進((株)日本総合研究所・チェアマン・エメリタス)

1、安倍政権のこれまでの取り組みとこれから

・現在デフレ脱却の途中

2、将来課題を見据えた持続的な経済財政の基盤固め

※人口減少対策・労働参加率引き上げと生産性引き上げ

・社会保障改革：全世代型社会保障の実現

・人づくり革命：少子化対策、教育改革(1億総活躍、働き方改革、教育の無償化)

・生産性革命：潜在成長率の引き上げ(第4次産業革命)ITの活用

・地域活性化に向けた仕組みづくり

3、雇用情勢の改善と労働参加率の向上

4、人材育成・働き方の方向性

5、人生100年時代構想会議

6、幼児教育、高等教育の論点

7、大学改革・リカレント教育

8、第4次産業革命をめぐる競争と求められる人材

★パネルディスカッション

若者たちの挑戦 一人人口減少社会の地域デザイナー

パネリスト 伊藤 文弥(NPO法人つくばアグリチャレンジ代表理事)

パネリスト 横山 太郎(Co-Minkan 普及実行委員会共同代表・医師)

パネリスト 李 炯植(NPO法人Learning for ALL 代表理事)

パネリスト 井上 貴至(総務省〈愛媛県市町振興課長〉)

コーディネーター 山崎 亮((株)studio-L 代表取締役、コミュニティデザイナー)



★講演Ⅱ

「人生 100 年時代の政府の取り組み」

菅 義偉（衆議院議員・内閣官房長官）



プログラム 2 日目

★講演Ⅲ

「これからの日本をどうする」

佐々木 信夫（中央大学名誉教授・(株)日本国づくり研究所理事長）



★講演Ⅳ

「空き家対策と活用策」

伊藤 明子（国土交通省住宅局長）

※ 感想及び都城市政への反映等

この研究大会には平成 23 年度、27 年度、29 年度に参加しており今回が 4 回目となった。今回の受講者は、市議会議員を中心に約 600 人だった。

今回は人生「100 年時代の地域デザイン」～人口減少社会に向き合う地域社会～というテーマでの研究大会であった。

最初に安倍政権のこれまでの取り組みと、現在の政策そして人生 100 年時代に向けての取り組み状況を分かり易く講演された。人口減少は進んでいくが労働参加率及び労働生産性を上げていかなくてはならないことが必要であるとのことだった。すでに、地方である本市においても、人手不足が顕著に表れ始めた。一般質問でも、ロボット化や ICT 活用での課題解決を提言してきたが、今後も重ねて提言していきたい。

これまで、パネルディスカッションでは、大学教授や省庁の職員がパネリストになることが多かったが、今回は各方面で活躍している若者がパネリストだった。

障がい者、子供の貧困、住民の絆・相互理解、地域づくり、仲間づくりなど、弱者といわれる人たちのために、いろんなアイデアを出しながら取り組んでいて、成果をあげているようである。行政が行き届かないところをカバーされているようにも感じた。市民の福祉の充実についてしっかり感じ取らなくてはならないと思う。私は、知的障害者施設の社会福祉法人での経験もあることから、当事者の方たちが今後、地域の中で暮らしやすくなるように提言していく。

人口減少により、行政も縮小しなくてはなくなるといいう話も、講演 Ⅲの中であったが、その通りだと思う。しかし行政機関は地方での仕事先として大きな存在でもあり、そこをどう考えていくか難しいところである。広域化等、研究していくべきだと考える。

議会についての講演もあった。常に改革を進めていくことが必要であり、議員個人としての行動ではなく議会全体として動くことの大切さを気付かされた。

人口減少が今後も続いていくが、常に将来を考え行動することによって、地域・地方及び日本の衰退を抑えていかなくてはならないと改めて感じた。



(政務活動報告)

榎木 智幸

第 10 回 2018 年度日本自治創造学会研究大会

「人生 100 年時代の地域デザイン」～人口減少社会に向き合う地域社会～

開催日時：平成 30 年 5 月 10 日（木）13：00～17：40

（研修内容）

私は、11 日の公務の為、10 日のみの研修となった。当日は、開会にあたり穂坂邦夫理事長からあいさつがあり、団塊世代の 2025 年問題や A I の 2045 年を取り上げ、これから来るであろう厳しい財政状況に目を向ける必要性を訴えられた。特に印象に残ったのは「国と地方の無駄」について、それぞれ役割分担を明確にして、将来的には行政が行っている仕事の四分の三は民間に任せていくべきとの発言である。国地方の無駄を排し財源確保を図ることがこれからの諸問題の解決に繋がっていくとのことでした。



次に、「人生 100 年時代の人づくり革命」と題して日本総合研究所の高橋進氏の講演があり、経済再生と人口対策を焦点に労働参加率の引き上げによる生産性引き上げを今後の日本に必要なとのことで、そのためには、社会保障改革で「医療・介護制度の抜本的な改革」人づくり革命では「人生 100 年時代と捉えて教育無償化を含めた再教育システムの構築」生産性革命では「第 4 次産業革命、Society（ソサエティ）5.0、S T E M 人材育成」を上げられ I A や A I への取り組みの必要性を訴えておられた。地域活性化に向けた仕組みづくりについても伺った。印象に残ったのは働く人口が少なくなっていく中、女性活用もさることながら人生 100 年時代に突入していくのだから、高齢者も健康な人は働いて社会に貢献していく時代になっていく、さらには今後 A I やロボットの技術の進展により現在の 40% が消滅する為、新たなスキルの再教育システム（リカレント教育）の確立が求められるとのこと、さらには新しい仕事や製品を創出できる人材育成システムへの今後の取り組みの重要性を訴えておられ、印象に残った。



パネルディスカッションでは「若者たちの挑戦」―人口減少社会の地域デザイナーを題として山崎亮氏がコーディネーターとなり（伊藤文弥氏）（横山太郎氏）（李昌炯植氏）（井上貴至氏）の4名のパネリストがそれぞれNPOや行政として取り組んできたことの紹介があり、地域づくりや教育格差の解消や自治体の取り組みを発表していただいた。印象に残ったことは障がい者が農業を通じて地域と関わり徐々にイベントなどを通じて元気に暮らしておられる取り組みと井上氏の行政マンの立場で出来る地域の活性化への取り組み、他の地域の物まねを自分の地域にあてはめたり、若者に地域づくりに参加しやすいきっかけを与えていくことでの活性化に繋がることなどが印象に残った。



次に、菅義偉官房長官による「人生100年時代の政府の取り組み」と題して講演が行われた。力説されたのは、ふるさと納税の導入について、秋田の田舎育ちで都会で働いている人の多くは、地方出身者でその方々を生み育ててきたのは地方の親たちである、都会だけにお金や経済が集中し恩恵を受けているのはおかしい、地方の発展無くして日本創成はあり得ない、若い時からの悲願であったため、総務大臣の頃は、財務省からの反対があったが、導入を強引に幹事長の立場で行った。都城市もふるさと納税、全国1位となり菅官房長官の地方を思いやる政策のおかげとあらためて感謝したい。やる気のある地域を応援していきたいとの話もあり、都城市も総力を挙げて知恵と汗をかいていきたいと感じた。



第10回 2018年度 日本自治創造学会 研究大会 報告書

中村 千佐江

人生100年時代の地域デザイン

～人口減少社会に向き合う地域社会～

日程：平成30年5月10日（木）～11日（金）

会場：明治大学

主催：財団法人 日本自治創造学会

●講演

- ・人生100年時代の人づくり改革

高橋 進 氏



人づくり改革のひとつとしてリカレント教育の必要性が説かれた。幼児教育の重要性と併せての話であったことと、働き方改革にも繋がる話であるため、大変興味をひかれた。リカレント教育においては、日本では馴染みにくい土壌があると思われるが、たとえばクールビズなどが急速に浸透したように、官が主導することで一気に広まることを期待したいと思う。本市でも市の特色に合わせた形でのリカレント教育を後押しする施策があっても良いのかと感じた。自らが就業していたIT業界は特に取り組みやすい分野なので、具体策を提案したいと考える。

●パネルディスカッション

- ・若者たちの挑戦 ―人口減少社会の地域デザイン―

パネリスト兼コーディネーター 山崎 亮 氏（(株)studio-L 代表取締役）

パネリスト 伊藤 文弥 氏（NPO 法人つくばアグリチャレンジ代表理事）

パネリスト 横山 太郎 氏（Co-Minkan 普及実行委員会共同代表・医師）

パネリスト 李 炯植 氏（NPO 法人 Learning for All 代表理事）

パネリスト 井上 貴至 氏（総務省〈現在、愛媛県市町振興課長〉）

若くして、地域活性化に取り組み成果を上げている人たちによるパネルディスカッション。コーディネーターの山崎氏による市民参加型のパークマネジメントにおいては、まるでドラマのようだと感嘆し

た。人の流れを作り出し、それを常習化するための不断努力は、敬意を覚える。本市においては、どのような取り組みだったら人の流れを常習化できるだろうかと考えているが思いつかない。

パネリストの4名の若者の行動にはただただ感心した。あまり強く注意されたりしたくないと言う現代の若者らしさも持ちつつ、利他的な熱意には心動かされた。特に、学習支援事業を行っている李氏の活動についてはできればもっと話を聞きたいと思う。

また、Co-minkanの考えは、本市の公民館未加入問題にも応用できる気がする。

総務省の井上氏についても、個人的に興味を持った。井上氏によって紹介された特色ある地域事業のひとつが、自身が漠然とイメージしていたものだったので、本市の特色に合わせて具体的な数字と共に提案したいと思う。

●講演

・人生百年時代の政府の取り組み

菅 義偉 氏（内閣官房長官・衆議院議員）



本市にはなじみの深い「ふるさと納税」の立役者である菅氏の講話。ふるさと納税実現への経緯や思い入れを直に聞くことができ、貴重な時間となった。

自治体が各々で考えた初の取組ということで、ふるさと納税を市のPRとして活用し成功した本市が本分を理解できていることに対して誇りに思い、今後も十分に説明を行って行かねばと感じた。

地方が元気であるようにとの菅氏の思いを受け止め、市の一員として自ら考え行動していこうと思う。

・これからの日本をどうする

佐々木 信夫 氏（中央大学名誉教授・(社)法人日本国づくり研究所理事長）

二日目の第一弾。前日の高橋氏、菅氏とは真逆の提言が多く、興味深く聞き入った。

道州制の導入を強く提案しているのだが、本市が位置する宮崎県のような、地理的にも隔絶された歴史背景を持ち、インフラが未だ十分でない地域はどうなるのか一抹の不安が残る。一方で、市町村こそを、国民ひとりひとりが第一の政府と考えるように持ち込みたい考えには賛同できる。具体的には、どのような行動が必要なのか検証が必要と考える。

・空き家対策と活用策

伊藤 明子 氏（国土交通省住宅局長）

空き家対策について、近未来的における具体的ビジョンと共に、明確な数字が列挙されていて非常にわかりやすかった。本市にもおいても、中山間部にも住宅地にも、空き家が点在している。地域的な問題なのか、空き家になっても、更地にしたり土地と共に手放したりということに対してあまり積極的でなく、家族が遠方より通って手入れをしているケースに多く遭遇する。空き家に関して国交省の狙いは、眠っている土地家屋を流通させ、貯蓄を消費に回すことである。今後の人口減社会において、土地家屋は供給過多に陥ることを念頭に置き、資産を収入にする考えにシフトしていく必要があると感じた。

農地付き空き家の活用促進についての先進地の事例については、農業が主幹産業である本市にも取り入れられるところがあるのではないかと考えた。本市の現在の取り組みと比較し、提言を行いたいと思う。



・日本の目指す道

新藤 義孝 氏（元総務大臣・衆議院議員）

領海、領土問題から、防衛についてなど、地方では積極的に意識することのない分野についてもっと詳しく聞きたかった。

装着型ロボットの開発について、初めは技術の革新の話かと思ったが、つまりは、その機能を活用することで、今まで体力的な問題で働けなかった人たちが、体力を必要とする職場で働けるようになるという、働き方改革の話につながったことに驚いた。また、先進的な技術が外国へ輸出され、外貨を稼いでいることにも、ちょっとした驚きを感じた。技術の向上・革新は停滞させてはならないと思った。

人口減社会を危惧すると、切り口が違っていても必ず、人づくりや働き方改革へと話題が及び、すなわち保育の受け皿拡大などの施策が必要になってくるのだと感じる。自身も子育て中であるので、当事者目線にて具体的に求められる施策についての提言を行っていきたいと思う。

- ・人口減と対峙する地方議会

北川 正恭 氏（早稲田大学マニフェスト研究所顧問・元三重県知事）

議会による政策の提言について、強く勧められていたことが印象的であった。長年、地方と国との議員および首長を務めた方が言うのだから絶対必要なんだろうと感じた。また、地方議会として、中央の追認機関に成り下がらないように心得ておかねばと思った。

一点突破というワードが強く残っている。自分における一点は何か問い続けなければと考えている。

- ・ごちやまぜ共生社会で創る日本の未来

雄谷 良成 氏（社会福祉法人佛子園理事長）

前日のパネルディスカッションで聞いた取組に似ている印象を持った。日本の各地で、それぞれの地域でのニーズに合わせ、提供できるサービスを提供できる範囲で提供しながら拡大している団体が複数あることに感心した。

自己超越欲求についての言及があったが、まさに、人としての尊厳が尊重されるコミュニティであると感じた。

市民として行政に対し何をしてくれるのか？という感覚でなく、自身で参加していくという心持が大切ではないかと考えた。公民館未加入問題にも活かせるのではないかと思う。